



官房機密第一〇二七八號 昭和十七年八月十七日
大東亞戰爭中外戰部隊ニ於テ准士官以上及候補生ニ對
寢具トシテ必要アルトキハ左ノ被服物品ヲ貸與スル
トヲ得

蒲團覆(甲、乙) 二組
毛布 五個以内

昭和十七年八月十七日

海軍大臣

○通牒

軍務一機密第六〇七號

昭和十七年八月十二日

海軍省軍務局長

各鎮守府、各艦隊 參謀長殿
大湊、馬公警備府

戰時潜水艦乗員及航空機搭乗員等ノ保健ニ
關スル施設其ノ他ノ件申進

首題ノ件曩ニ軍務一機密第八六號及同第四四六號ヲ以
テ申進候處更ニ大湊警備府ニ對シ左記要領ニ依リ保健
場設置セラルルコトニ相成候條可然取計相成度

記

- 一 保健場所在地
青森縣及北海道方面ニ於テ大湊警備府長官所定
- 二 保健場使用者
航空機搭乗員ヲ主トス
- 三 施設要領、使用要領其ノ他ハ軍務一機密第八六號
ニ準ズ

(參照) 軍務一機密第八六號(本年二月十日)
同 第四四六號(本年六月二十三日) 海軍公報(部内
限)

經物第一三五號

前金拂又ハ概算拂ノ契約實施要領左ノ通定ム

昭和十七年七月二十四日

海軍省經理局長

前金拂又ハ概算拂ノ契約實施要領

- 第一 法令ニ依リ前金拂又ハ概算拂ヲ爲シ得ル契約ノ
相手方ハ在外造船造兵監督官ノ契約及官公署トノ契
約ノ場合ノ外左ニ掲グルモノトス
- 一 海軍購買名簿登錄者
- 二 工業組合及産業組合
- 三 海軍管理工場、陸軍管理工場

- 四 各種統制法令ノ規定ニ基キ主務大臣ノ指定シタル物資配給統制會社又ハ之ニ準ズルモノ
 - 五 土地、建物若ハ工作物ノ買入若ハ借入、工業所有權ノ買入若ハ借入又ハ備船ノ場合ニ於ケル當該物件ノ所有者又ハ當該權利者
 - 六 試験、研究又ハ調査ニ從事スル者
 - 七 其ノ他資産信用鞏固ニシテ技術經驗ニ富ム者
- 前項第七號ノ者ニ付テハ契約擔任官ハ其ノ資産、經歷、既往ノ成績等ヲ具シ豫メ所管經理部長ヲ經テ承認ヲ受クルモノトス
- 第二 前金拂又ハ概算拂ヲ爲シ得ル金額ハ契約代價(概算拂ニ在リテハ豫定價格)ノ四分ノ三以内トス但シ特ニ必要アル場合ニ於テハ契約代價(概算拂ニ在リテハ豫定價格)ノ十分ノ九以内トスルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所管經理部長ヲ經テ承認ヲ受クルモノトス
- 第三 概算拂ヲ爲シ得ル契約ハ左ニ掲グルモノトス
- 一 製造又ハ工事請負契約中其ノ一部ヲ官ニ於テ受託シ其ノ費用ヲ契約代價ヨリ控除スル場合受託品ノ決算未了ノ爲契約代價ノ支拂遅延スル場合
 - 二 急速發註ヲ要スルモ規格仕様等ニ未確定ノモノ

海軍公報(部内限) 第四百千七百七十號 昭和十七年八月十七日

アリテ價格ノ決定困難ナル場合又ハ價格構成ノ内容ニ付直ニ確定スルコト困難ナル部分アリテ確定契約ニ至ラザル場合

三 其ノ他特ニ概算拂ノ契約ヲ必要トスル場合但シ此ノ場合ニ於テハ所管經理部長ノ承認ヲ受クルモノトス

前項ニ依ル概算拂契約ノ價格ハ一應豫定ノ單價又ハ代價ヲ以テシ爾後成ルベク速ニ單價又ハ代價ヲ協定シ價格協定書ヲ作成スルモノトス

契約書ニハ契約履行迄ニ協定調ハザル場合ハ契約擔任官ノ定ムル所ニ依ル等必要ナル協定條項ヲ掲記スルモノトス

第四 昭和十二年官房第三七七號及昭和十三年經物第一〇六號第一第二項ニ依リ承認シタル者ト見做ス

附則

昭和十二年經物規第二三號及昭和十三年經物第一〇六號ハ之ヲ廢止ス

○ 辭 令

海軍豫備學生 玉木 正枝

八八七

(各通)

野内 道夫
宮川 武二

臨時第四艦隊司令部ニ派遣ヲ命シ置キタル處之ヲ免シ臨時第四氣象隊ニ派遣ヲ命ス(六期海軍省)

海軍豫備學生 玉木 正枝

(各通)

野内 道夫
宮川 武二

臨時第四氣象隊ニ派遣ヲ命シ置キタル處之ヲ免シ臨時水路部ニ派遣ヲ命ス

(各通)

海軍豫備學生 池田 博行
長安 照雄

臨時大湊警備府司令部ニ派遣ヲ命シ置キタル處之ヲ免ス

(各通)

海軍豫備學生 春日 新吉郎
藤尾 芳男
成田 千二

臨時大湊警備府司令部ニ派遣ヲ命ス(以上ハ同)

○ 雜 款

○郵便物等發送ニ關スル件照會
本艦宛發送ノ左記期間ニ於ケル郵便物托送品等未着ニ

付再送方相煩度

自昭和十七年一月下旬 自昭和十七年四月下旬
至同年三月上旬 至同年六月下旬
(軍艦 神川 丸)

○事務所撤去

第五航空戰隊殘務整理事務所ハ八月十五日撤去セリ
追テ自今特ニ必要書類ハ左ニ送付相成度

横須賀海軍航空隊氣付

海軍少佐 大谷藤之助

(第五航空戰隊殘務整理員)

○移轉

大泊在勤海軍武官府ハ八月四日左ニ移轉セリ

樺太大泊町榮町本通二丁目三番地

本郷汽船株式會社内(電話九四番)

(榮町驛ヨリ東二一丁)

○訂正

六月三十日海軍公報(部内限)號外、人祕第五號ノ五別紙(表、裏)中「授與年月日、勳功記番號」ノ欄ヲ「授與年月日」ニ、「彼勳發令年月日、勳功記番號」ノ欄ヲ「彼勳發令年月日」ニ改ム

海軍公報 (部内限) 第四千七百七十一號

海軍大臣官房

昭和十七年八月十八日(火)

○令達

官房機密第一一號ノ八七

昭和十七年八月十八日

海軍大臣

各鎮守府司令長官
大湊、馬公、鎮海警備府司令長官
兵器簿ノ件通達

各艦船部隊學校兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正

記

區別	品名	數稱	摘要
削除	燒灼抵抗縮線器	個	定數全部
同	威士電橋	個	削除
同	精針電流計	個	
同	白金線	米	

○通牒

官房第五〇〇七號

昭和十七年八月十八日

海軍次官

各廳長殿

軍事功勞徽章制定竝ニ付與ニ關スル件通牒

昭和十年官房第四一四八號首題ノ件中第二號(ニ)ヲ左ノ通改正相成候

「昭和九年官房第五〇〇〇號表彰内規ニ依リ」ヲ「昭和十六年官房第五四九七號ノニ表彰内規ニ依リ」ニ、
「同内規第一號(ハ)及(リ)該當者」ヲ「同内規第二號(ロ)及(ト)該當者」ニ改ム

(参照) 海軍諸例則卷二、四八〇ノ四頁

軍需機密第一四七號ノ二ニテ本號廢止
昭和十七年八月十八日
海軍省軍需局

海軍公報 (部内限) 第四千七百七十一號 昭和十七年八月十八日

八八九

0823

關係各廳御中

通信長主管軍鳩用經營需品處理ニ關スル
件照會

首題ノ件ニ關シテハ左記ノ通ト了知相成度

記

- 一 横須賀海軍軍需部所管以外ノ部隊ニ在リテハ其ノ請求書ヲ所管(所屬)海軍軍需部經由ノ上請求ノコト
- 二 現品ハ横須賀海軍軍需部ヨリ直接請求應ニ送付供給ス

○ 辭 令

都市計畫地方委員會技師 米田 計信

海南警備府附ヲ命ス(十八日海軍省)

鐵道調査部技師 山田 政次郎

第一課勤務ヲ命ス(十八日海軍省兵備局)

海軍主計特務少尉 春山 重好

元山海軍航空隊殘留隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計特務少尉 河野 豊

右同臨時分任出納官吏ヲ免ス(十八日海軍省) 支出官 海軍省

經理局長)

東港海軍航空隊殘留隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス
海軍主計兵曹長 佐伯伊太郎

右同臨時分任出納官吏ヲ免ス(十八日同)

(各通)

第一課勤務ヲ命ス

海軍技師 山口 利貞
海軍技手 中川 良雄
同 今谷 彌吉

第二課勤務ヲ命ス(以上十八日海軍氣象部)

氣象調査事務囑託 鈴木 親抵

第二課勤務ヲ命ス(十八日同)

海軍技手 金子 義春

○ 雜 款

○電話架設

三重海軍航空隊
電話香良洲 十四番

○事務所撤去

第三十三號驅潛艇艦裝具事務所ヲ八月十五日撤去セリ

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千七百七十二號

昭和十七年八月十九日(水)

海軍大臣官房

○令 達

官房機密第一〇三八七號

當分ノ間戰地ニ於テ海軍ノ工事又ハ運輸作業等ニ從事スル請負人ニハ必要ニ應ジ糧食品ヲ供給スルコトヲ得前項適用區域ハ海軍省軍需局長ノ定ムル所ニ依ルモノトシ尙糧食品ノ供給及整理ニ關シテハ海軍省軍需局長及海軍省經理局長ヲシテ之ヲ通牒セシム

昭和十七年八月十九日

海軍大臣

○通 牒

軍需機密第一九五號

昭和十七年八月十九日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

戰地ニ於テ海軍ノ工事又ハ運輸作業等ニ從事スル請負人ニ對シ糧食品ノ供給及整理ニ關スル件通牒

官房機密第一〇三八七號ニ依ル首題ノ件ハ左記ニ依リ處理相成度

一 供給元
海軍軍需部
特設海軍軍需部

二 供給手續及整理

(イ) 工事又ハ運輸作業等擔當廳(海軍工廠、海軍航空廠、海軍建築部、海軍運輸部等ニシテ以下擔當廳ト稱ス)ノ主務部局(海軍艦政本部、海軍航空本部、海軍施設本部等)ノ長ハ海軍省軍需局長ノ定ムル地域内ニ於テ工事又ハ運輸作業等ニ從事スル請負人ニ對シ糧食品供給ヲ必要ト認ムルモノアルトキハ地域別、供給員數、供給期間等ノ概要ヲ附シ事前海軍省軍需局長ニ協議スルモノトス

海軍公報(部内限) 第四千七百七十二號 昭和十七年八月十九日

八九一

0825

- 海軍省軍需局長ハ前項協議中承認シタルモノノミニ付供給元ヲシテ之ガ供給ヲ爲サシムルモノトス
- (ロ) 前項該當ノ請負人ニシテ糧食品自辨困難ノ爲官ヨリ之ガ供給ヲ受ケントスルトキハ擔當應ヲ經由シ供給元ニ願出ヅルモノトス
- 擔當應前項願出ノ經由ニ當リテハ従業員數、期間、現地入手困難ナル事情等ヲ考量シ細密ナル査定ヲ爲シ之ヲ供給元ニ送付スルモノトス
- (ハ) 供給元ハ供給ノ都度糧食品領收票ヲ徴スルモノトス
- (ニ) 供給元ハ毎月頭其ノ前月分ヲ取纏メ供給集計表(別紙様式)ヲ作製シ海軍省軍需局、擔當應及其ノ主務部局ニ各一通ヲ送付スルモノトス
- (ホ) 擔當應ハ前項ノ供給集計表ニ依ル供給金額ヲ工事文ハ運輸作業等ノ契約代價ヨリ差引クモノトス
- (ヘ) 供給元ハ消耗拂トシテ整理シ擔當應ハ請負人ヲシテ適宜帳簿ヲ設ケシメ供給ヲ受ケタル糧食品ノ受拂ヲ監督スルモノトス
- (ト) 供給單價ハ時價ヲ參酌シ供給元ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

○ 豫算移用

○ 別表添)

軍需機密第一九五號ノ二
昭和十七年八月十九日
海軍省軍需局長

關係各廳長殿
戰地ノ適用區域ニ關スル件通牒

官房機密第一〇三八七號ニ依ル首題ノ件當分ノ間左記ノ通定メ候
記

一 小笠原諸島、硫黃島、南鳥島、南洋群島、ニューブリテン島、ニューギニア及其ノ附屬島嶼

○ 辭令

高等軍法會議判士ヲ免ス	海軍大佐 島 峯 次
東京軍法會議判士ヲ免ス	
高等軍法會議判士ヲ命ス	海軍中佐 鹿 江 隆
東京軍法會議判士ヲ命ス	

神戶監理官ヲ命ス	海軍艦政本部造船監 督官海軍機關大佐	日色 謹爾
神戶監理官ヲ免シ長崎監理官ヲ命ス		
神戶監査官ヲ免シ長崎監査官ヲ命ス		
神戶監理官ヲ命ス		辻 幾三郎
同		
兼テ勞務ニ關シ監理長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ		
長崎監理官ヲ命ス	海軍艦政本部造船監 督官海軍機關中佐	渡邊 敬之助
長崎監査官ヲ命ス		
東京監理官ヲ命ス	海軍航空本部造兵監 督官海軍造兵少佐	福島 喜久雄
東京監査官ヲ命ス		
福岡監理長ヲ命ス	海軍艦政本部造兵監督官兼海軍 航空本部造兵監督官海軍大佐	岡田 昇
福岡監査長ヲ命ス		
大阪監理官ヲ命ス	海軍艦政本部造船監督官兼造兵監督 官海軍航空本部造兵監督官海軍大佐	坂野 民部
大阪監査官ヲ命ス		

海軍技術會議議員海軍中佐	永田 茂
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	
海軍技術會議議員海軍機關中佐	窪 徳一
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(以上ハ海軍省)	
陸海軍石油委員會幹事輔佐ヲ命ス	海軍中佐 永田 茂
高等軍法會議判士ヲ命ス	
東京軍法會議判士ヲ命ス	同 西川 亨
高等軍法會議判士ヲ免ス	
東京軍法會議判士ヲ免ス(以上ハ同)	
海軍機關少佐	森下 陸一
第一課勤務ヲ命ス(海軍省人事局)	
海軍主計大尉	吉田 省吾
第二課勤務ヲ命ス	同 柏原 三郎
海軍主計中尉	高木 哲夫
第四課勤務ヲ命ス(以上ハ海軍省經理局)	

○ 雜 款

海軍公報(部内限) 第四百百七十二號 昭和十七年八月十九日

八九三

○司令驅逐艦變更
第十六驅逐隊司令ハ七月十五日司令驅逐艦ヲ雪風ニ變更セリ

○司令潜水艦變更
第二潜水隊司令ハ八月十日司令潜水艦ヲ伊號第十九潜水艦ニ變更セリ

○司令艇變更
第十六掃海隊司令ハ八月十六日司令艇ヲ第七昭和丸ニ變更セリ

○開設
第一魚雷調整班ヲ八月五日横須賀潜水艦基地隊内ニ開設セリ

○正誤
五月二十一日辭令欄五一七頁上段四行目新竹州警部補野上 清ノ發令月日「五月九日」ハ「一月二十日」ノ誤

0828

海軍公報 (部内限) 第四千七百七十三號

海軍大臣官房

昭和十七年八月二十日(木)

○通牒

官房機密第一〇三九四號

昭和十七年八月十九日

海軍次官

大阪警備府參謀長殿

阪神方面ニ於ケル南方占領地ノ政務ニ關スル連絡機關ニ關スル件申進

當分ノ間南方占領地ノ政務ニ關シ阪神方面部外トノ連絡ノ爲適宜貴警備府司令部職員ヲ指定シ之ニ當ラシメラレ度必要ニ應ジ之ヲ南方政務大阪連絡部ト呼稱シ差支ナキ内意ニ候

官房機密第一二八〇號ノ一六

昭和十七年八月二十日

海軍省副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房機密第一二八〇號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附録所在地區別符表(其ノ一)中「クエゼリソルオツトウ九壹」ヲ削ル
附録部隊區別符表(其ノ一)中末尾ニ左ノ如ク加フ

北方部隊派遣隊	ウ壹六六
第五測量隊	ウ壹六七
派出所	ウ壹六八
第四海軍病院	ウ壹六九
第五航空隊	ウ壹七〇
第二十六航空戰隊	ウ壹七壹
第十三魚雷調製班	ウ壹七貳
第八海軍病院	ウ壹七參

海軍公報(部内限) 第四千七百七十三號

昭和十七年八月二十日

八九五

0830

支 隊 ヲ壹七四

同 (其ノ二) 中「第六十一海軍航空廠」ヲ「分工場」テ「分工場」ヲ「分工場」ニ改メ「第百三海軍航空廠」ヲ「分工場」及「派出所」テ「參武」ヲ加フ

同 (其ノ三) 中末尾ニ「派出所」イ四「九」及「在勤海軍武官府」イ五〇ヲ、同(其ノ四) 中末尾ニ「派出所」イ五八及「第三十六航空隊」イ五九ヲ加フ

附表中左ノ如ク改ム
第十海軍軍用郵便所ノ項中「第十二派出所」ヲ加ヘ同項ノ次ニ

第十一海軍軍用郵便所	第五根據地隊	横須賀鎮守府	第四艦隊
第十二海軍軍用郵便所	第八根據地隊	右 同	第八艦隊
第十三海軍軍用郵便所	第六根據地隊	右 同	第四艦隊

ヲ加フ
第二十三海軍軍用郵便所ノ項中「第一派出所」山城ヲ「第一派出所」長門ニ改メ第二十五海軍軍用郵便所ノ項ノ次ニ

第二十六海軍軍用郵便所	第二十一特別根據地隊	吳鎮守府	第二南遣隊
第二十七海軍軍用郵便所	第二十二特別根據地隊	右 同	右 同
第二十八海軍軍用郵便所	第二十四特別根據地隊	右 同	右 同

ヲ加フ
第三十五海軍軍用郵便所ノ項中「第一航空艦隊」ヲ「第三艦隊」ニ改ム
第三十六海軍軍用郵便所ノ項中「第一派出所」第二十五航空戰隊司令部ヲ加ヘ同項ノ次ニ

第四十海軍軍用郵便所	第十一特別根據地隊	佐世保鎮守府	第一南遣隊
------------	-----------	--------	-------

ヲ加フ
第四十一海軍軍用郵便所ノ項中「第二派出所」第九特別根據地隊ヲ加フ

軍務三第一號

昭和十七年八月

海軍諸例
附登載

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

壓縮ガス及液化ガス容器取扱ニ關スル件

0831

申進

首題容器類製作ニ關シ最近壓潰試驗等ニ於テ不合格トナルモノ漸次増加ノ傾向有之右ハ概ネ材質ノ低下及之ニ伴フ製造工程ノ欠陥竝ニ合格判定基準ノ不統一等ニ基因スルモノト認メラレ候ニ付テハ當分ノ問答證明書ノ交付、壓潰試驗、延伸試驗ノ實施及合格判定等ニ關シテハ既申進ニ依ルノ外左記ニ依リ處理相成度

記

一 容器證明書ノ交付

中容器ニシテ耐壓試驗壓力二〇〇氣壓以上ノ容器ニ在リテハ製作後必ズ適當ナル溫度ニテ熱處理ヲ爲サシメ之ヲ行ハザル容器ニ對シテハ容器證明書ヲ交付セザルコト

二 壓潰試驗

(一) 壓潰試驗施行ニ際シテハ別圖第一ニ示ス位置四箇所ノ厚ヲ測定シ其ノ平均値ヲ以テ容器壁ノ厚トスルコト

(二) 壓潰試驗中裂音ヲ發シ龜裂ヲ生ジタルトキ及肉眼ニテ深サ容器壁ノ厚ノ五分ノ二ヲ超エタルコト明瞭ナル龜裂ヲ生ジタルトキハ其ノ同一群(同一製造所ニ於テ同一鑄塊ノ材料ヨリ製作シタル同形

ノ容器ニシテ製作時期一月以上ヲ隔テザル百箇以內ノ一群ノモノ以下之ニ同ジ)ニ屬スル殘餘ノ全部ヲ不合格品トスルコト

(三)

微小ノ龜裂(内務省告示壓縮瓦斯及液化瓦斯ノ容器ニ關スル屈曲壓潰及延伸試驗規程第二條ノ規定ニ依ル龜裂ト判定スルニハ酷ト認メラル程度ノモノ)ヲ生ジタルトキハ必ズ顯微鏡検査ヲ爲シ龜裂ノ深サ容器壁ノ厚ノ五分ノ一未滿ナルトキハ其ノ同一群ニ屬スル殘餘ノ全部ヲ合格品トシ五分ノ一以上ナルトキハ更ニ同一群中ヨリ任意二箇ノ容器ヲ抽出シ壓潰試驗ヲ行ヒ二箇共ニ完全無缺ナルトキハ其ノ同一群ニ屬スル殘餘ノ全部ヲ合格品トシ然ラザルトキハ全部ヲ不合格品トスルコト

(イ) 龜裂ノ深サトハ龜裂ヲ生ジタル容器壁面ヨリ之ニ最モ遠キ龜裂部位ニ至ル法線距離ヲ謂フ(別圖第二參照)

(ロ) 容器壁ノ厚ハ容器表面ノ黒皮等ヲ削落セザル以前ノ厚トスルコト

(四) 壓潰試驗又ハ延伸試驗ニ不合格トナリタル容器ニ在リテモ其ノ原因ガ製作後ノ熱處理不適當ニ起因スルコト明瞭ナルトキハ再熱處理後改メテ試驗

ヲ行フモ妨グナキコト

三 延伸試験

(一) 中容器ノ延伸試験片ハ採取後燒鈍其ノ他ノ熱處理ヲ施サザル次ノ試験片ヲ以テ之ヲ行ヒ其ノ延伸率一五「パーセント」ヲ超ユルモノヲ合格トスルコト

標點距離

五〇耗

平行部ノ長サ

約七〇耗

試験片ノ幅

二五耗

厚

原厚ノ儘

(二) 中容器及小容器ノ延伸試験ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ノ部分ニ於テ切斷シタルトキハ其ノ試験ヲ無効トシ更ニ試験片ヲ採取シテ再試験ヲ行ヒ得ルコトトスルコト (別圖二葉添)

海運機密第三〇〇號

昭和十七年八月十九日

海軍運輸部長

關係各廳長殿

鐵鋼材類ノ鐵道輸送ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シテハ豫テ軍用貨物同様優先輸送ノ取扱方申入申ノ處今般左記ノ通鐵道部内一般ニ通達セラレ候ニ就テハ海軍部内ニ於テモ之ガ託送ニ際シテハ鐵道ト連絡ヲ密ニシ速達輸送ヲ期セラル、様可然取計ヲ得度 追テ託送ハ軍用輸送券ニ據ラザルモノト了知相成度

記

軍需資材ノ輸送方ニ就テ(運輸局) 特種貨物運送手續第一條第五號ニ依リ軍用貨物ヨリ除外セラレタル特殊鋼、鐵合金、鐵材等ト雖モ戰爭遂行上必要ナルモノニ對シテハ軍事車票ノ使用ヲ認メ之ガ輸送ノ速達ヲ期シ居リ貨車配給順位ニアリテモ軍用貨物ト同様ニ取扱ハルベキ所之ガ徹底セザル向モ有之趣ナレドモ軍事車票供用ノ精神ニ稽ヘ此等重要資材ニ對スル貨車配給竝ニ輸送ニ關シ萬遺漏ナキヲ期スベシ

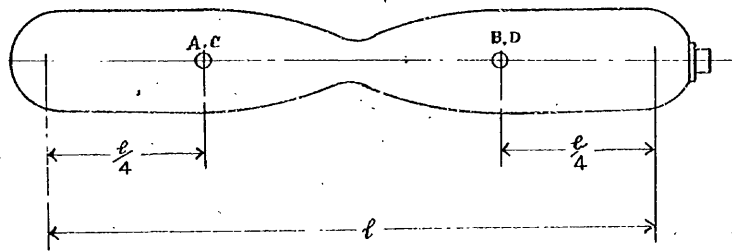
〇 辭令

海軍技術會議議員海軍中佐 永田 茂

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(十八日海軍省)

0833

別 圖 第 一



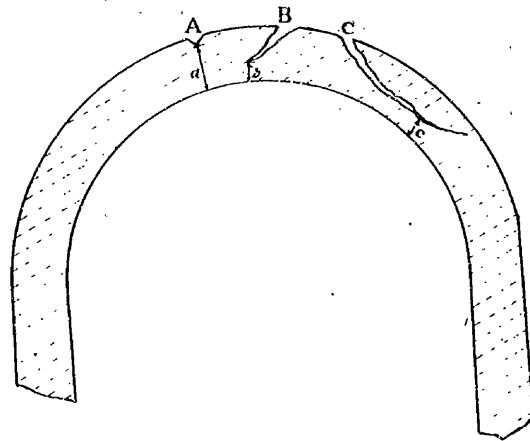
l = 容器胴体平行部ノ長さ

- (イ) 圖中 A, B 及之ト對象ノ位置 C, D ノ四箇所ヲ孔明シ夫々肉厚ヲ測定シ其ノ平均値ヲ以テ當該容器ノ肉厚トスルコト
- (ロ) A, B, C, D 點ハ壓潰試験ニ於テ楔狀物ノ當ラザル面トスルコト
- (ハ) A, B, C, D 點ノ孔明ハ供試容器ニ應ジ壓潰ノ前後何レニテモ支障ナキコト

昭和十七年八月二十日 (海軍公報 部内限)

0834

別 圖 第 二



A, B, C. ----- ミツノ亀裂ノ例
 a, b, c. ----- 亀裂ノ深サヲ知ル爲メニ
 測定スル厚ノ例
 壁厚 - a, (b), (c). ----- 亀裂ノ深サ

昭和十七年八月二十日(海軍公報(部内限))

0835

○ 雜 款

○ 事務所設置

護國丸艦裝具事務所ヲ八月十五日岡山縣玉野市玉三井造船株式會社玉工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

伏木在勤海軍武官府ヲ八月二十日富山縣高岡市伏木湊町伏木水上警察署内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

伏木在勤海軍武官府敦賀出張所ヲ八月二十日福井縣敦賀市天滿(舊敦賀海軍武官府内)ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○ 事務開始

第八海軍病院ハ八月十五日横須賀海軍病院内ニ於テ事務ヲ開始セリ

佐世保鎮守府第六特別陸戰隊ハ八月十五日佐世保海兵團内ニ於テ事務ヲ開始セリ
追テ郵便物發送先ハ左ノ通

佐世保郵便局氣付 町田部隊

○ 殘務整理

敦賀在勤海軍武官府殘務整理ハ伏木在勤海軍武官府内ニ於テ之ヲ行フ

○ 事務所撤去

第二十三號驅逐隊並ニ菊月殘務整理員事務所ヲ七月二日撤去セリ

第三十二號驅逐隊艦裝具事務所ヲ八月十九日撤去セリ

○ 艦名讀方ノ件

本艦宛電信發信ノ際艦名誤讀ノ爲重要通信ニシテ未到達並ニ誤達トナリタルモノ有之候ニ就テハ自今斯カル事ナキ様關係者ニ左記示達相成度

記

「カミカゼマル」
「シンブウマル」

正 誤

(神 風 丸)

○ 正誤

七月三十日海軍公報(部内限)雜款欄郵便物發送先中第三十一號驅逐艇ノ項中「ウ〇壹九」ハ「ウ壹〇九」ノ、八月十一日同中第二十四通信隊ノ項中「七四〇 七貳貳」ハ「七四〇 七貳貳」ノ孰モ誤

0836

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千七百七十四號

昭和十七年八月二十一日(金)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房第五〇六八號
 當分ノ間支那ニ在ル海軍ノ部隊共々他各部ノ軍屬タル
 工員ニシテ一年以上ノ豫定ヲ以テ勤務スルモノニハ在
 外海軍部隊艦船臨時給與令第四條、同施行細則第五條
 ノ二及第五條ノ三ノ規定ヲ準用シ特別手当ヲ支給ス
 前項ノ特別手当ハ工長ニ在リテハ部内限判任待遇者ノ
 額、其ノ他ニ在リテハ傭人ノ額トス

昭和十七年八月二十一日

海 軍 大 臣

○ 辭 令

海軍主計特務少尉 大坪 清人
 臺南海軍航空隊殘留隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費
 支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(以テ支出
 官 海軍省經理局)

(各通)

- 海軍大佐 堀江義一郎(艦本)
- 海軍中佐 佐藤 佐(同)
- 同 南 六右衛門(軍務)
- 海軍少佐 岩 城 繁(軍令)
- 海軍造船大尉 中島 富士夫(艦本)
- 海軍造機大尉 井田 鐵太郎(同)
- 海軍特務少尉 横濱 寅吉(早埼)
- 海軍豫備大尉 松岡 克己(同)
- 海軍技師 石橋 福次(艦本監)
- 同 大野 英雄(同)
- 同 小野寺 廣介(同)
- 特務艦早埼審議委員ヲ命ス(以テ海軍艦政本部)
- 海軍造兵大尉 中村 猛雄(艦本)
- 呂號第百潜水艦審議委員ヲ命ス
- 海軍中佐 平田 勉(艦本)
- 呂號第百潜水艦審議委員ヲ免ス(以上以テ同)

海軍公報(部内限) 第四千七百七十四號 昭和十七年八月二十一日

九〇一

0837

海軍公報 (部内限) 第四千七百七十五號

昭和十七年八月二十二日 (主)

海軍大臣官房

○令達

官房機密第一〇五〇〇號

支那事變第一次行賞發令日以後昭和十六年十二月七日迄ノ海軍工(鑑)員ノ死歿者ニ對スル慰勞賞格標準ヲ別表ノ通定ム

所屬長官ハ本標準ニ依リ職務ノ繁閑及其ノ實績ニ鑑ミ死歿工(鑑)員ノ功績ヲ査定シ昭和十七年九月三十日迄ニ到達スル様海軍工員戰役慰勞金賞賜規程第四條ノ手續ヲナスベシ

別表ハ海軍功績調査部長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十七年八月二十二日

海軍大臣

○通牒

軍需機密燃第三七〇號

昭和十七年八月二十一日

海軍省軍務局長
海軍省軍需局長

關係各廳長殿

新二號重油(七・三試製二號重油)供給ニ關スル件申進

艦船主機械用二號重油ハ昭和十七年九月一日以降新二號重油ヲ以テ供給スルコトトシ本燃料變更ニ伴フ「バラスト」調整未済ノ潜水艦及狀況止ムヲ得ザル場合ニ限リ二號重油ヲ使用シ得ルコトニ定メラレ候
追テ新二號重油ノ規格左記ノ通制定セララル豫定ニ有之候

記

新二號重油規格

本重油ハ「タラカン」油ニ「シエール」油又ハ「フイッシャー」油ヲ混ジタルモノニシテ重油機械用燃料トシテ適當ナル品質ヲ有シ噴油裝置ニ障害ヲ及ボス如キ

海軍公報 (部内限) 第四千七百七十五號

昭和十七年八月二十二日

九〇三

0838

塵芥ヲ混セス且左ノ各號ニ適合スルモノタルベシ	一 水 分 (試験法第二號) 〇・二%以下	二 反 應 (試験法第三號) 中性	三 比 重 (試験法第四號第一法) 〇・九一五(±〇・〇〇五)	四 引 火 點 (試験法第五號乙) 攝氏六五度以上	五 粘 度 (試験法第六號甲) 攝氏三〇度ニテ 三〇秒以上	六 夾 雜 物 (試験法第七號) 〇・〇五%以下	七 硫 黃 (試験法第八號甲) 一・〇%以下	八 灰 分 (試験法第九號) 〇・〇五%以下	九 凝 固 點 (試験法第一〇號) 攝氏零下五度以下	〇 發 熱 量 (試験法第一一號) 一〇〇〇〇「カロリー」以上
二 炭 化 分 (試験法第一八號) 二・〇%以下	三 「セタン」價 (試験法第二九號) 三八以上	人秘第五號ノ七 昭和十七年八月二十二日 海軍省 人事局長	關係各廳長殿 書類訂正ノ件照會	本年六月十三日人秘第五號ノ二(同日海軍公報(部内限)及同三十日人秘第五號ノ五(同日海軍公報(部内限)號外)ニ依ル「海軍省人事局長宛」送付ノ大東亞戰爭功績書類ハ自今「海軍功績調査部長宛」送付ノコトニ改メ候	〇 辭 令	遞信局事務官 阿部 司元	第二海軍軍用郵便所長ヲ命ス(以テ海軍省) 同 奥寺 俊吉	第八海軍軍用郵便所長ヲ命ス(以テ同) 同		

海軍大佐 鶴岡 信道(艦本監)
海軍造船中佐 加藤 恭亮(同)
(各通)
海軍特務少尉 吉田 仁佐(新井埼)
海軍技師 三原 嘉徳(艦本監)
敷設艇新井埼審議委員ヲ命ス(海軍艦政本部)

海軍公報(部内限) 第四千七百七十五號 昭和十七年八月二十二日

九〇五

0840

海軍公報 (部内限) 第四千七百七十六號

海軍大臣官房

昭和十七年八月二十四日(月)

○令 達

官房機密第八六九六號ノ二
昭和十七年八月二十四日(月) 官房機密第八六九六號ノ二ニテ本報ヲ停止ス
 當分ノ間第八艦隊所屬特設應ノ支拂ニ屬スル經費ハ海軍會計規程第三十九條別表第四(丙)ノ區分ニ拘ラズ艦隊經費トス

前項特設應ノ經費ニ付テハ當該特設應勤務ノ主計科准士官以上ノ者ヲ分任出納官吏トス

第八艦隊所屬特設海軍經理部ハ所在特設應ノ經費支拂ヲ整理スルコトヲ得

昭和十七年八月十五日

海軍大臣

官房第五一二六號

大東亞戰爭中海軍工員又ハ鑛員ニシテ勤務精勵ナルモノニハ左ノ各號ニ依リ精勤手當ヲ支給スルコトヲ得

昭和十七年八月二十四日

海軍大臣

一 精勤手當受給者ノ範圍

工員又ハ鑛員ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノ但シ技手養成所練習工員、部外依託修業中ノ工員、補修科工員、選科工員及見習工員並ニ海軍工員臨時給與規則ノ適用ヲ受クル者ヲ除ク

(イ) 其ノ月中缺勤、遅刻又ハ早退ナキコト

(ロ) 其ノ月中刑罰、懲罰又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケザルコト

(ハ) 其ノ月中ニ二十日以上服業(出場ヲ含ム)セルコト

(ニ) 勤務ノ成績優秀ナルコト

前項ニ於テ缺勤、遅刻又ハ早退ト稱スルハ左ノ場合トス

缺勤 海軍工(鑛)員規則又ハ其ノ他ノ規定ニ依リ缺勤トシテ取扱ハザル場合以外ノ事

由ニ依リ出業又ハ出場セザル場合

遅刻 起業時限ニ遅レテ入門シ爲ニ賃錢ノ減額ヲ行フ場合

海軍公報(部内限) 第四千七百七十六號

昭和十七年八月二十四日

九〇七

0841

早退 終業時限前ニ退業シ爲ニ賃錢ノ減額ヲ行フ場合

前項ノ外殘業ヲ命ゼラレタル者殘業ニ服セズシテ若ハ其ノ中途ニ於テ退業シタル場合又ハ早出ヲ命ゼラレタル者其ノ時刻ニ遅レテ入門シタル場合等ハ之ヲ早退又ハ遅刻ト看做スモ情狀ニ依リ早退又ハ遅刻トシテ取扱ハザルコトヲ得

二 支給額

一人月額 三圓

三 經費支辨科目(區分)

工作廳

附屬費(整理符號九〇)

火藥廠及燃料廠

事業費、工員人夫給

建築部

臨時工事費、作場費、各基本給科目

港務部

臨時工事費、港務費、借給

附則

一 本令ニ依ル精勤手当ハ昭和十六年官房第五一四四號及其ノ施行細目ニ定ムル初給賃錢ノ制限外トス

二 本令ハ昭和十七年八月二十一日(第四、第五燃料廠ニ在リテハ同年八月十六日)ヨリ之ヲ適用ス

〇 辭令

第二十六海軍軍用郵便所長ヲ命ス
通信事務官 川崎 長次

遞信局書記 鈴木 正吉

遞信局書記 田邊 卓躬

遞信局書記 岩崎 芳藏

貯金局書記 佐藤 保雄

遞信書記補 赤沼 新一郎

同 杉山 唯義

同 井部 一市

同 若色 政次

同 同

第二十五海軍軍用郵便所員ヲ免シ第二十六海軍軍用郵便所員ヲ命ス
事務員 福田 芳次郎

同 金子 滿津穗

同 湯淺 深保

同 佐藤 末吉

同 江原 辰二

(各通)

0842

同	保坂 鏡也	同	增田 菊男	同	大橋 岩雄	第二十五海軍軍用郵便所員ヲ免シ第二十六海軍軍用郵便所員ヲ命ス	同	但シ身分ノ取扱ハ雇員トス	通信事務官 小川 明治郎	第二十七海軍軍用郵便所長ヲ命ス	通信書記 横山 正夫	遞信局書記 前田 清	同	松本 録造	(各通)	遞信局書記補 村田 朝男	通信書記補 栗田 弘男	第二十五海軍軍用郵便所員ヲ免シ第二十七海軍軍用郵便所員ヲ命ス	事務員 八鍬 万太郎	同	松浦 鎌次	同	坂入 陸	同	若林 節男	同	三橋 康人	第二十五海軍軍用郵便所員ヲ免シ第二十七海軍軍用郵便所員ヲ命ス				
同	立松 繁太郎	同	宮澤 憲三	同	市野 正巳	第二十八海軍軍用郵便所長ヲ命ス	同	但シ身分ノ取扱ハ雇員トス	通信書記 犬飼 良一	同	作野 政太郎	同	伊藤 義男	(各通)	同	大塚 五郎	同	岩越 幸一	第二十五海軍軍用郵便所員ヲ免シ第二十八海軍軍用郵便所員ヲ命ス	事務員 加藤 一郎	同	望月 健之助	同	山邊 武義	同	中津川 重夫	同	酒井 幸男	同	白井 水隆	同	伊藤 勉

海軍公報(部内限) 第四千七百七十六號 昭和十七年八月二十四日

九〇九

0843

海軍主計大尉 安川 泰

バタビヤ在勤海軍武官室ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(以テ支出官 海軍省經理局長)

海軍機關中佐 市吉 聖美

第二課勤務ヲ命ス(以テ海軍省軍需局)

○ 雜 款

○事務開始
鎮海海軍工作部旅順分工場ハ八月一日關東州旅順(舊旅順方面特別根據地隊工作部)ニ於テ事務ヲ開始セリ

○殘務整理
第二潜水戰隊殘務整理ハさんとす丸内ニ於テ之ヲ行フ追テ郵便物ハ横須賀郵便局氣付さんとす丸内殘務整理員宛

○正誤
八月十二日辭令欄八六〇頁上段鐵道局技師水嶋太郎ノ辭令月日「七月二十五日」ハ「六月二十五日」ノ誤

事務員 吉田 泉

第二十五海軍軍用郵便所員ヲ免シ第二十八海軍軍用郵便所員ヲ命ス
但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

貯金局書記 島森 間佐男

第二十五海軍軍用郵便所員ヲ命ス
通信書記補 池田 清徳

第六海軍軍用郵便所員ヲ命ス

事務員 中迫 清孝

(各通)

同 稻富 豊吉
同 小堀 重憲
同 野口 次男

第六海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上ハ海軍省)

海軍艦政本部造船監督官兼造兵監督官
官海軍航空本部造兵監督官海軍大佐 野口 照隆

大阪監理官ヲ命ス

主トシテ勞務ニ關シ監理長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ

(以テ同)

(各通)

海軍法務學生ヲ命ス(以テ同)

設樂 敏男
平井 太郎

海軍公報

(部内限) 第四千七百七十七號

海軍大臣官房

昭和十七年八月二十五日(火)

○ 令 達

官房第五一四二號

海軍諸例
則登錄

大東亞戰爭ニ際シ戰地ニ在ル特設廳長ハ所屬ノ雇員、
傭人(艦管傭人ヲ除ク)、工員及傭員ノ保健上必要アル
トキハ左ノ各號ニ依リ體育普及ヲ圖ルヌトヲ得

昭和十七年八月二十五日

海 軍 大 臣

- 一 體育ハ主トシテ保健及心身ノ鍛鍊ヲ目的トシ作業
時間外ニ於テ之ヲ行フモノトス
- 二 體育ノ種目及實施ノ方法ハ廳長之ヲ定ム
- 三 體育普及ニ要スル經費ハ毎年四月一日(本年ニ限
リ九月一日)ニ於ケル日本人タル雇員、傭人、工員
及傭員在籍員數一人宛壹圓以内トス
- 四 特設廳長ハ毎年四月其ノ前月迄ニ實施セル體育普
及ノ概況ヲ報告スルモノトス
- 五 本令ノ特設廳トハ特設ノ海軍經理部、海軍建築

部、海軍軍需部、海軍工作部、海軍特別工作部、海
軍航空廠、海軍燃料廠、海軍港務部及海軍病院並ニ
工作艦トス

官房第五一四二號

購買名簿調査委員會規程中左ノ通改正ス

昭和十七年八月二十五日

海 軍 大 臣

第三條第二項中「海軍航空本部部員 六人」ヲ「海軍
航空本部部員 八人」ニ改ム

○ 通 牒

一七契一二第一〇號ノ二四〇

昭和十七年八月二十五日

海 軍 省 經 理 局 長

關係各廳長殿

藥品調達處理要領ノ件通牒

海軍公報(部内限) 第四千七百七十七號

昭和十七年八月二十五日

九二一

海軍藥納協力會ヲ利用シテ藥品(醫藥品ヲ除ク)ヲ調達セントスル場合ハ別紙處理要領ニ依リ實施方可然取計相成度

(別紙)

藥品調達處理要領

- 第一條 海軍各廳カ藥納協力會ヲ利用シテ藥品類(醫藥品ヲ除ク)ヲ調達セントスルトキハ本要領ニ據ル
- 第二條 各廳ハ一ケ年間所要概量調書(別紙様式)ヲ當該年度開始前一ケ月前迄ニ海軍省經理局ニ通知ス
- 第三條 經理局ハ前條通知ニ基キ兵備局ニ協議ノ上年間所要概量ヲ藥納協力會ニ内示シテ其ノ調達計畫ヲ樹テシム
- 第四條 各廳ハ第二條ノ概量通知ニ基キ成ル可ク各四半期初頭ニ於テ其ノ期分ヲ取纏メ註文書ヲ藥納協力會ニ送付ス
- 第五條 藥納協力會ハ前條ノ註文書ヲ受領セルトキハ適當ナル納入者ヲ選定ノ上見積書ヲ徴シ價格調査資料ヲ添付シ經理局ニ提出ス
- 第六條 經理局ハ前條ニヨル見積書ヲ審査ノ上適當ナルト認メタルトキハ之ニ審査済ト記入シ藥納協力會

- ヲシテ註文應ニ提出セシム
- 第七條 經理局ハ狀況ニ應ジ註文書ヲ取纏メ集中契約ヲナスコトアルヘシ
- 第八條 藥納協力會ハ第三條ノ調達計畫又ハ第四條ノ註文書ニ基キ資材ノ配給又ハ斡旋ヲ要スルトキハ計算ノ基礎ヲ明示シタル配給又ハ斡旋申請書ヲ經理局ニ提出ス
- 第九條 經理局ハ前條ノ申請書ヲ妥當ナリト認メタルトキハ關係部局ト交渉ノ上之ガ配給(割當)又ハ斡旋ヲ行フ
- 第十條 經理局ハ資材其ノ他ノ都合ニヨリ受註數量ヲ制限スルコトアルヘシ
- 第十一條 醫藥品ニ就テハ本要領ニ依ルコト無ク各廳ハ一應醫務局ニ需要量ヲ通知シ醫務局ト經理局ト協議ノ上處理ス
- 第十二條 既ニ統制契約(單價協定又ハ單價概量契約)シアルモノハ本要領ニ依ラズ從來通處理スルモノトス
- 第十三條 本要領ハ昭和十七年八月二十五日ヨリ之ヲ實施ス

(別紙様式添)

軍需機密燃第三七六號

昭和十七年八月二十三日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

戰利品石油罐ニ關スル件通牒

近ク第三海軍燃料廠ヨリ配給ノ普揮石油及輕油等ノ石油罐ハ戰利品ヲ利用ノ爲該品刻印ニハ「ソコニー・モーター・ガソリン」(Soony Motor Gasoline)等ノ表示アルモノ有之候モ内容ハ該刻印ニ不拘新ニ記入ノ燃料經理規程通ノ識別ニ依ルモノニ有之候條可然取計相成度

○ 辭令

四千貳百圓

吉川 庄兵衛

(各通)

參千圓

足立 遼

貳千貳百八拾圓

森山 輝正

徵用中年額各頭書ノ通ヲ給シ部内限委任官待遇トス
(三月海軍省)

勳七等 吉塚 榮雄

徵用中年額千四百四拾圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス
(三月同)

千九百貳拾圓

糸山 直次

千參百貳拾圓

仲谷 和美

(各通)

千貳百圓

北川 大四郎

千四百四拾圓

陸軍中尉從七位勳六等

篠田 次郎

千四百四拾圓

田中 幸生

徵用中年額各頭書ノ通ヲ給シ部内限委任官待遇トス
(十月同)

○ 雜款

○司令驅逐艦變更

第三十二驅逐隊司令ハ八月二十二日司令驅逐艦ヲ朝顔ニ變更セリ

○司令艇變更

第一監視艇隊司令ハ八月二十一日司令艇ヲ昌榮丸ニ變更セリ

○事務開始

釧路在勤海軍武官府ハ八月十七日釧路市浦見町九ノ一三ニ於テ事務ヲ開始セリ

○殘務整理

第八潜水隊殘務整理ハ伊號第四潜水艦内ニ於テ之ヲ行

0848

海軍公報（部内限）第四百七十七號 昭和十七年八月二十五日

九一四

○本日普通公報發行セズ

(限 内 部)

0850

海軍公報 (部内限) 第四百七十八號

昭和十七年八月二十六日(水)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第五一五五號

本年十一月一日調製スベキ下士官増俸拔擢名簿及兵増俸候補名簿ハ海軍武官増俸規則第十條又ハ昭和四年達第五十號第二號ノ期日ニ拘ラズ十月二十日ノ所屬(同日ニ所屬ヲ變更シタル者ハ舊所屬ニ依ル)ニ付之ヲ調製シ十一月五日迄ニ具申又ハ報告スベシ但シ十月二十日現在ニ於テハ増俸資格ヲ有セザルモ十一月一日ニ至ラバ同資格發生スル者ニ對シテハ本號所定ノ調製期日現在ノ勤務ガ十一月一日迄繼續スルモノトシテ計算シ拔擢名簿又ハ候補名簿ニ其ノ旨附記スルモノトス

昭和十七年八月二十五日

海 軍 大 臣

○ 通 牒

契庶機密第七五六號

昭和十七年八月十四日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

統制契約ニ關スル件通牒

首題ノ件別表ノ通契約締結致候條該當品ハ本契約ニ依リ處理相成度
追而契約書ハ別途配付ス
(別表添)

經豫第三號ノ四八六

昭和十七年八月二十五日

海軍省 經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

日本銀行代理店設置ノ件通知

國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ「パリツクババン」、「マカツサル」、「メナド」及「アマボイナ」ニ設置昭和十七年八月二十日ヨリ之ガ事務ヲ取扱フコトト

海軍公報 (部内限) 第四百七十八號

昭和十七年八月二十六日

九一五

相成候條了知相成度

經豫機密第三號ノ九七

昭和十七年八月二十五日

海軍省經理局長

關係各支出官殿

海軍徵備船舶船員諸給與支弁科目ノ件通牒

本年達第二百十三號ニ依ル首題支弁科目ハ臨時軍事費(款、項)船舶費(目)ト定メラル

○雜款

○司令艇變更

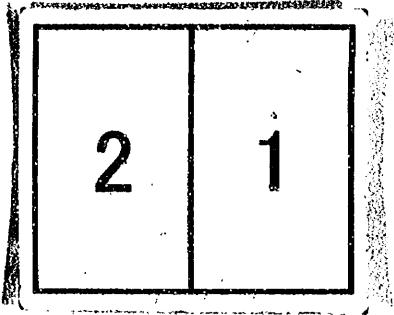
第五十二驅潛隊司令ハ八月十日司令艇ヲ第五拓南丸ニ變更セリ

○事務所設置

川棚海軍工廠(假稱)設立準備事務所ヲ八月二十日佐世保海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

冲鷹艦裝具事務所ヲ八月二十日吳海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	統制契約締結一覧表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

一七經契第一〇一號	軌條用 ホルトナット及大釘	日本鉸釘株式會社 帝國製釘株式會社 合資會社丸加金屬工業所	一七—四—一	至自 八七—三四—三
一七經契第一〇八號	建築用ホルトナット	日本鉸釘株式會社 帝國製釘株式會社 合資會社丸加金屬工業所	一七—四—一	至自 八七—三四—三
一七經契第一二二號ノ二	漆 (更改)	東洋漆工業株式會社	一七—五—二五	至自 八七—三五—一五
一七經契第一五六號	港用品タル沈鍾	株式會社久保田鐵工所 大阪製鋼株式會社 株式會社板本鑄造鐵工所 三木重工株式會社 越原鐵工所 大和重工株式會社 國光製鋼業株式會社	一七—四—一	至自 八七—三四—三
一七經契第一六六號	珪酸曹達	日本製練株式會社	一七—六—三〇	至自 八七—六三—〇
一七經契第一六七號	クエン酸鐵アンモン	合資會社奥野清商店	一七—七—一五	至自 八七—七八—三一
一七經契第一五六號	港用品タル沈鍾	三木重工株式會社 越原鐵工所 大和重工株式會社	一七—一—二〇	至自 八七—三三—〇
一七經契第一四九號	次亞硫酸曹達 無水亞硫酸曹達 ヘイトロキノン	川日化學工業株式會社	一七—七—一五	至自 八七—七八—三一
一七經契第一五〇號	石炭酸	帝國染料製造株式會社	一七—八—一	至自 八七—七八—三一
一七經契第一五五號	亞鉛華	化學工業株式會社東京支店	一七—八—一	至自 八七—七八—三一
一七經契第一五八號	人造黒鉛電極棒及同 接手	日本カーボン株式會社 東海電極製造株式會社	一七—三—三一	至自 八七—六一—三〇
一七經契第一三九號	鹽化アンモン	北海曹達株式會社	一七—六—三〇	至自 八七—六三—〇
一七經契第一三八號	純礬酸	田邊化學工業株式會社	一七—六—三〇	至自 八七—六三—〇
一七經契第一三五號	工業用硝酸	株式會社安宅商會東京支店	一七—六—二五	至自 八七—五六—三一
一七經契第一三四號	重炭酸曹達 純無水炭酸曹達 トリクロールエチレ	旭硝子販賣株式會社	一七—七—二五	至自 八七—七八—三一
一七經契第一一六號	港用品タル沈鍾	株式會社久保田鐵工所 大阪製鋼株式會社 株式會社板本鑄造鐵工所	一七—一—二〇	至自 八七—三三—〇
一七經契第二七〇號	藥糞地	高安合資會社 合名會社木下國明商店	一七—四—一	至自 八七—三四—三
一七經契第二二八號	木溪湖純鉄鐵 タルピン翼材類	株式會社本溪湖煤鐵公司 日本特殊鋼株式會社	一七—四—一	至自 八七—三四—三
一七經契第二〇六號	電縫鋼管	株式會社播磨造船所	一七—四—一	至自 八七—三四—三
一七經契第一九五號	リヤカ	受輪工業株式會社 株式會社マルカタ製作所	一七—七—一	至自 八七—三三—一
一七經契第一一五號	浴用石鹼	花王石鹼株式會社長瀬商會 丸見屋商會 株式會社資生堂	一七—六—一五	至自 八七—六三—〇
一七經契第一〇八八號	シヤベル・スコップ (更改)	日本シヤベル統制株式會社	一七—六—一〇	至自 八七—五六—三一
一七經契第一〇八三號	防毒面防毒服	昭和化工株式會社 日本ゴム株式會社東京支店	一七—三—三一	至自 八七—三四—三
一七經契第一〇八二號	糸	日本府織維配給統制株式會社	一七—七—一	至自 八七—六三—〇
一七經契第一〇七九號	アスファルト (更改)	瀝青配給組合	一七—六—九	至自 八七—三六—三
一七經契第一〇六七號ノ二	半成コークス	東京内幌コーライト配給統制株式會社	一七—四—一	至自 八七—九四—三〇
一七經契第一〇六七號ノ三		東邦化學工業株式會社		

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千百七十九號

昭和十七年八月二十七日(木)
海軍大臣官房

○令 達

官房第五一六九號

海軍省教育局部外教育班規程海軍諸例
則登載ヲ通改正ス

昭和十七年八月二十六日

海 軍 大 臣

第七條中班长「軍令部出仕兼海軍省出仕」ノ下ニ「又ハ教育局局員」ヲ、班員「教育局局員」ノ下ニ「又ハ軍令部出仕兼海軍省出仕」ヲ加フ

(参照) 昭和十七年七月十四日海軍公報(部内限) 本欄

○通 牒

軍務一機密第六五二號

昭和十七年八月二十六日

海 軍 省 軍 務 局 長

各 廳 長 殿

火災防止ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ各部共深甚ナル考慮ヲ拂ハレアル次第ナルモ最近大湊海軍航空隊其ノ他ニ火災事故頻發シ損害亦相當額ニ上リツツアリ陸海軍軍需工場ノ統計ヨリ之ヲ見ルニ前年ニ比シ件數ニ於テ約四〇「パーセント」、金額ニ於テ約二五「パーセント」ノ増加ヲ示シアリ是軍備、戰備ノ促進ニ伴フ急激ナル施設ノ擴充、要員ノ増加等其ノ一因ナリト雖モ當然避ケ得ラルベシト認メラルル錯誤又ハ不注意ニ起因スルモノ亦尠カラズ斯クテハ戰備ノ整備ヲ支障ヲ來タスノミナラズ極度ニ物資ヲ節用シテ戰備ノ充實ヲ圖リツツアル現下ハ情勢ニ鑑ミ誠ニ遺憾ニ堪ハザル所ナルニ付テハ今後火災事故ノ防止絶滅ニ關シ一層研究考慮ヲ拂ハルルト共ニ之ガ責任ノ究明處理ヲ明確ナラシムル様留意相成度

教育第一七號ノ八六

昭和十七年八月二十日

海 軍 省 教 育 局 長

關係各廳長殿

海軍公報(部内限) 第四千百七十九號

昭和十七年八月二十七日

九一七

0854

恩賜研學資金受賞對策並ニ表彰對策ノ件通牒

官房第四九三六號昭和十六年度首題對策ハ左記ノ通配付ノ豫定ニ有之候

記

一 受賞ノ部

對 策	官 氏 名	記 事
艦隊ノ防空ニ關スル研究	海軍少佐 千早正隆	教育參考資料トシテ一般ニ配付
艦上攻撃機分隊長トシテ主務訓練急速向上策	海軍大尉 田中正臣	教育參考資料トシテ所要ノ向ニ配付
驅逐艦水雷長勤務參考	海軍大尉 濱住芳久	同
航空通信術向上策	海軍大尉 中川俊	同
軍艦最上機械分隊長トシテ所掌機關ノ故障防止上特ニ留意セル事項	海軍機關大尉 考壽悟	教育參考資料トシテ一般ニ配付
比叡型戰艦ニ於ケル戰時治療準備法	海軍軍醫大尉 二宮春海	教育參考資料トシテ所要ノ向ニ配付
潜水艦用連續空氣清濁法並ニ清淨劑ニ關スル研究	海軍藥劑少佐 瀬川俊雄	同
重工業材料參考書	海軍主計大佐 清水新一	同

二 表彰ノ部

0855

艦船部隊ニ於ケル體育主任參考資料體育概況	海軍少佐 棚田 次雄	教育參考資料トシテ一般ニ配付
麻耶型二十種砲發令所長勤務參考	海軍大尉 松山 瑞穂	教育參考資料トシテ所要ノ向ニ配付
北洋警備驅逐艦(神風型) 乘組兵科將校トシテ心得ベキ事項	海軍大尉 澤田 孝夫	同
長門型戰艦ニ於テ最適トスル晝間測的法	海軍大尉 吉本 謙一	同
霰型驅逐艦砲術長勤務上ノ參考	海軍大尉 石塚 榮	同

○ 辭 令

第三十驅逐隊司令ハ八月二十五日司令驅逐艦ヲ彌生ニ變更セリ

吳海軍工廠水雷部部長兼魚雷實驗部部長 計部部長 海軍主計中佐

辻 英 祐

廣島監査官ヲ命ス(以上ハ海軍省)

海軍造船少佐 有馬 正雄(艦本)

呂號第百潜水艦審議委員ヲ命ス

海軍造船少佐 富田 範郎(艦本)

呂號第百潜水艦審議委員ヲ免ス(以上ハ海軍艦政本部)

○ 雜 款

○司令驅逐艦變更

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度
廣島縣吳郵便局氣付
(軍 艦 沖 應)

軍艦唐津宛
一 普通郵便 吳郵便局氣付(軍事郵便)
二 航空郵便 第四十三海軍軍用郵便所氣付
(軍事航空郵便)
(第三南遣艦隊司令部)

八月二十五日迄 和歌山縣 紀伊由良郵便局氣付

海軍公報(部内限) 第四百百七十九號

昭和十七年八月二十七日

九一九

0856

八月二十六日以後 長崎縣 佐世保郵便局氣付

(第一掃海隊司令)

横須賀郵便局經由 第十海軍軍用郵便所留置

(伊號第百七十二潜水艦)

横須賀郵便局氣付 ウ一〇五 ウ一七三

(第八海軍病院)

横須賀郵便局經由

ウ五〇 ウ三七氣付(公用軍事航空郵便)

但シ公報類及至急ヲ要スルモノノミニ止メ他ハ従前
通吳局留置トス

(伊良湖特務艦長)

○開舍

八月二十一日第四海軍病院夏島假病舎(トラツク島夏
島)ヲ開舍セリ

○事務所撤去

驅逐艦卷波艤裝員事務所ヲ八月十八日撤去セリ

第八海軍病院設立準備委員事務所ヲ八月二十五日撤去
セリ

松榮丸残務整理事務所ヲ八月二十五日撤去セリ
自今所用ノ向ハ横須賀第一海兵團附海軍機關兵曹長清

水源造苑照會相成度

(松本部隊残務整理員)

一 特設掃海艇第一號黃浦丸、第二號黃浦丸ノ給與及

其ノ他ノ經費ハ七月十八日以降第十三砲艦隊附主計

科士官ヲシテ掌理セシム

二 雜役船飛鳥ノ給與及其ノ他ノ經費ハ八月八日以降

多多良乘組主計科士官ヲシテ掌理セシム

昭和十七年八月十三日

(支那方面艦隊司令長官)

海軍少佐小西四六、同田淵初雄、同石橋岩三、海
軍造兵大尉日高莊輔本月十七日實験飛行中遭難殉
職、來二十九日(土)一三三〇海軍航空技術廠ニ
於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行

0857

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千百八十號

昭和十七年八月二十八日(金)
海軍大臣官房

○ 通 牒

官房機密第一〇五〇一號ノ三

昭和十七年八月二十二日

海 軍 次 官

關係所屬長官殿

大東亞戰爭作戦地ニ於ケル塔碑建設ニ關スル件申進

首題ノ件別紙ノ通陸軍ト協定セラレタルニ付了知相成度

(別紙)

大東亞戰爭作戦地ニ於ケル塔碑建設要領

大東亞戰爭作戦地ニ於ケル各軍(各艦隊)ハ左記要領ニ依リ忠靈塔若クハ忠魂碑又ハ戰蹟記念碑ノ建設ヲ計畫スルモノトス
但シ從來ノ支那事變作戦地ニ在リテハ支那事變ノ塔碑ト大東亞戰爭ノ塔碑ト別個ノモノヲ建設スルコトナク

海軍公報(部内限) 第四千百八十號 昭和十七年八月二十八日

九二一

昭和十四年陸支密第一七七六號(昭和十四年官房第二五五九號ノ六)ニ依ル塔碑ニ包含セシムルモノトス

第一 目 的

各軍及各艦隊作戦地域ニ於ケル忠靈塔(參戰陸海軍共ノ他ノ陣歿者ノ遺骨等ヲ納ムルモノ)若クハ忠魂碑又ハ戰蹟記念碑ヲ建設シ以テ忠靈ヲ顯彰シ其ノ偉勳ヲ永ク後世ニ記念シ大東亞永遠ノ平和ノ爲帝國外東亞各地ニ於ケル精神の中心タラシム

第二 建設ノ要旨

一 忠靈塔若クハ忠魂碑又ハ戰蹟記念碑ノ建設ハ陸海軍、内務省、外務省、厚生省、拓務省關係並ニ現地居留民團等相協力ノ許ニ實施ス
又財團法人大日本忠靈顯彰會之ニ協力ス
二 忠靈塔若クハ忠魂碑又ハ戰蹟記念碑ノ建設位置ハ各軍及各艦隊ノ作戦セル重要地點(佛印、泰ヲ除ク)ノ主要都市及其ノ附近交通便ナル地點等ニシテ將來ノ軍事並ニ經濟施設關係上特ニ之カ保存ヲ願慮シ各

0858

軍(各艦隊)ニ於テ作戰ノ推移ニ應シ慎重研究ノ上其ノ位置、建築様式及建築費ノ概要ニ就キ豫メ陸軍大臣ニ上申スルモノトス(海軍關係ヲ主トスルモノハ各艦隊ヨリ海軍大臣ニ上申ス)特ニ忠靈塔(遺骨ヲ納ムルモノ)及忠魂碑建設位置ハ將來ニ於ケル皇軍ノ保護及維持經營ヲ顧慮シナルヘク少數ニ限定シ規模ハ成ルヘク大ナラシムルモノトシ差當リ各軍(各艦隊)作戰地ニ忠靈塔若クハ忠魂碑一トシ陸海軍協同作戰地ニ於ケルモノハ陸海軍合同トス

三 右建設位置決定ノモノニ對スル建設ニ要スル經費中官費ハ概ネ二箇所ニ付忠靈塔(忠魂碑)ハ五萬圓、戰蹟記念碑ハ一萬圓以内トシ第一號ニ基ク寄附金ヲ以テ補足シ且維持スルモノトス

四 本計畫ニ依ル忠靈塔若クハ忠魂碑又ハ戰蹟記念碑以外各種塔碑ノ濫立ハ避クルモノトス

五 各軍(各艦隊)ハ本計畫忠靈塔等ノ建設及維持經營ノ爲要スレハ現地官民ニ依リ寄附行爲團體ヲ結成スルコトヲ得此ノ場合ハ財團法人大日本忠靈顯彰會支部ノ形式トシ其ノ指導援助ヲ受クルモノトシ各軍(各艦隊)カ此ノ種事業ノ爲直接内地官民ニ寄附行爲ヲ要望セザルモノトス

六 大東亞戰爭忠靈塔等建設事業ノ爲一般將兵ノ醸出金額ハ俸給一日分一回ヲ標準トス

官房機密第一〇七六六號
昭和十七年八月二十七日

海軍省、副官

關係各廳長殿

兵器簿取扱及記註心得ニ關スル件申進

兵器簿(海軍艦政本部系)ノ取扱及記註心得ニ關シ左記ニ依リ處理ノコトト定メラレ候

記

一 自今兵器簿卷頭ニ首題心得(別紙)ヲ記載ス(既通達ノモノニ對シテハ印刷セルモノヲ後送シ之ヲ挿入セシム)

二 兵器ノ保管、授受又ハ改正等ニ當リテハ本心得ヲ恪守スルモノトス

(別紙)

兵器簿取扱及記註心得

一 兵器簿ハ軍極祕文書扱トシ當該兵器ノ主管者之ガ保管ノ責ニ任ズルモノトス

二 通達又ハ内令兵號ニ依リ兵器簿改正ノ際ハ速ニ之

- ヲ行ヒ其ノ記註ハ努メテ明確ニスルト共ニ改正記入表ニ其ノ年月日番號等ヲ記註スルモノトス
- 三 艦船部隊名ノ改名ノ際ハ兵器簿ヲ當該名ニ改正シ之ヲ襲用スルモノトス但シ司令部名又ハ驅逐隊等ノ隊名變更ノ際ハ特ニ指示ナキ限り舊兵器簿ヲ供給元海軍軍需部ニ還納シ新名稱ニ對スル兵器簿ヲ所管海軍軍需部ヨリ受領スルモノトス
- 四 艦隊、戰隊、驅逐隊、潜水隊、海防隊、水雷隊、掃海隊及驅潛隊編制ノ際ハ當該隊用兵器簿ヲ所管海軍軍需部ヨリ受領スルモノトス
- 五 乗員ヲ置カザル艦船ノ兵器簿ハ該艦船保管處ニ之ヲ移管スルモノトス
- 六 (イ) 第四號ノ各隊ノ解除、部隊廢止又ハ改版等ノ爲不用トナリタル兵器簿ハ所管海軍軍需部ニ還納スルモノトス
(ロ) 除籍艦船ノ兵器簿ハ船體處分迄之ヲ該艦船保管處ニ交付シ處分後所管海軍軍需部ニ還納スルモノトス
- 七 前號ニ依リ還納受シタル兵器簿ハ三年間同海軍軍需部ニ保管シ爾後海軍艦政本部長ノ承認ヲ得テ之ヲ處分スルモノトス

海軍公報(部内限) 第四千八百八十號 昭和十七年八月二十八日

九二三

八 不用ト爲リタル兵器簿挿替舊紙ハ總テ之ヲ所管海軍軍需部ニ還納シ其ノ他ノ改正紙ハ二年間保管ノ上燒却スルモノトス

九 兵器簿ハ役務行動上特ニ止ムヲ得ザルモノノ外毎年一回所管海軍軍需部保管ノモノト照合シ其ノ年月日ヲ兵器簿裏表紙ノ内面ニ順次記註スルモノトス

昭十七年八月二十七日

海軍省軍需局長

關係所轄長殿

烹炊用燃料ニ關スル件申進

從來蒸氣烹炊ニ依ルヲ得ザルモノノ烹炊用燃料ハ主トシテ薪ヲ使用シ來リシモ作戰地ノ擴大ト共ニ之ガ需要益々増加シ而モ運輸其ノ他ノ事情ニ依リ當分回滯ナル供給ヲ期待シ得ラザルニ付自今烹炊用薪ハ努メテ現地調達ニ依ルコトトシ之ガ入手困難ナル地方所在ノモノニ在リテハ石炭ヲ使用スルコトニ工夫研究シ極力薪ノ使用ヲ制限セラレ度

追テ差當リ行軍用釜掛ノ火床改造ニ依リ石炭主用(薪使用可能)ニ適スルモノヲ供給可致候

○ 辭令

軍令部課長海軍大佐 川畑 正治
第三部第七課長ヲ命ス

軍令部部員海軍中佐 永田 茂

第二部第四課兼同第三課勤務ヲ命ス(以上ハ海軍軍令部)

海軍大佐 川畑 正治

參謀部第三部第七課長ヲ命ス

海軍中佐 永田 茂

參謀部第二部第四課勤務ヲ命ス(以上ハ海軍大本營海軍部)

○ 雜款

○ 郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

吳郵便局經由 第二十三海軍軍用郵便所留置

(軍艦 瑞風)

横須賀郵便局氣付

(富士丸)

吳郵便局氣付

第二港務部宛

七參貳 七參參

第二港務部長宛

七參貳 七參參部長

第二港務部主計長宛

七參貳 七參參主計長

(第二港務部)

吳郵便局氣付

追テ本艦ハ本年一月十五日極東丸ヲ旭東丸ト改名
セラレタル所往々ニシテ二艦夫々異ルモノト思考
セラル、向有之候ニ付テハ留意相成度
尙本艦艦長宛書類ニシテ監督官ト記載シアルモノ
多數有之モ本艦ハ特務艦ニ付念爲

(特務艦 旭東丸)

0861

海軍公報 (部内限) 第四千八百一十一號

昭和十七年八月二十九日 (土)
海軍大臣官房

○令 達

官房第五二二一號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十七年八月二十九日

海軍大臣

表中第二十三海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「専任五人判任」ヲ「専任 六人判任」ニ改ム

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ (昭和十七年二月十九日本欄)

官房第五二二二號

當分ノ間海軍戰時給與規則施行細則第九條ノ二ノ服裝手當ハ文官及同待遇者ニシテ戰地ニ在ルモノ若ハ派遣セラザルモノ又ハ艦隊ニ勤務スルモノニ之ヲ支給ス

昭和十七年八月二十九日

海軍大臣

官房機密第一〇八四三號

大正十四年官房機密第一四六二號中左ノ通改正ス

昭和十七年八月二十九日

海軍大臣

第一號中「海軍火藥廠」ノ下ニ「海軍燃料廠」ヲ加ヘ「陸軍科學研究所」ヲ「陸軍技術本部」ニ改ム

附 則

本令ハ昭和十七年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

(参照) 大正十四年官房機密第一四六二號ハ化學兵器手當支給規則第一條ニ依ル部隊及化學兵器ノ範圍等ノ件ナリ

官房機密第一〇八四四號

昭和十六年官房機密第一二六三九號中左ノ通改正ス

昭和十七年八月二十九日

海軍大臣

第一項第一號中「艦船」ノ下ニ「特設回航班」ヲ加フ

(参照) 昭和十六年官房機密第一二六三九號ハ戰地ニ在ラザルモ特

(限 内)

内 限

海軍公報 (部内限) 第四千八百一十一號 昭和十七年八月二十九日

九二五

0862

別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者ノ給與ニ關スル件ナリ

官房機密第二八二二號ノ三

昭和十七年官房機密第二八二二號申左ノ通改正ス

昭和十七年八月二十九日

海軍大臣

第一號中「及根據地隊」ヲ「根據地隊及魚雷調整班」ニ改ム

(參照) 昭和十七年官房機密第二八二二號ハ昭和十六年官房機密第一二六三九號第一項第七號ノ部隊指定ノ件ナリ

○ 暹 牒

艦本第八號ノ四五二六

昭和十七年八月二十八日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

揮發油檢知器竝ニ同指示藥注文ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シテハ從來海軍技術研究所ニ於テ製造方受託致居候處爾今所要ノ向ハ直接又ハ監督官ヲ經テ左記會社ヨリ購入ノ事ニ取計相成度

記
揮發油檢知器 正和製作所

揮發油指示藥 正氣理化工業所

東京市板橋區志村町八三五
東京市下谷區坂本一丁目二

○ 辭 令

(各通) 海軍技術會議 議員海軍中佐 上出 俊二

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(海軍省) 天谷 孝久

第八海軍軍用郵便所員ヲ命ス 事務員 鷺見 良三

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(海軍省同)

○ 雜 款

○學生入校期日

近ク任命豫定ノ本校第二十期選修學生ハ九月二十一日午前八時三十分始業式ニ付其ノ前日迄ニ入校セシメラレ度

(海軍軍醫學校)

0863

海軍公報 (部内限) 第四千八百八十二號

昭和十七年八月三十一日 (月)
海軍大臣官房

○令達

内令
官房第五二六〇號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十七年八月三十一日

海軍大臣

表中第三十二海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「専任六人判任」ヲ「専任七人判任」ニ、「専務六人雇員」ヲ「専務七人雇員」ニ改ム

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ (昭和十七年二月十九日本欄)

官房機密第一〇九四六號

本年八月三十一日現在左記上欄各艦ノ職名ヲ有スル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ
昭和十七年八月三十一日

海軍大臣

記

特設航空母艦	春日丸	航空母艦	大鷹
同	八幡丸	同	雲鷹

○通牒

兵備二第三八八號

昭和十七年八月三十一日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

國ニ於テ營ム事業ニ消費スル電力ノ新規又ハ増加受電ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ一號第五六〇號ヲ以テ電氣廳長官ヨリ海軍次官宛別紙ノ通照會有之候條電力消費ニ關スル關係廳トノ打合ハ右ニ依リ取計相成度

(参照) 昭和十七年八月十九日附選信省令第九十二號
昭和十五年五月十一日附一號第五〇〇號

海軍公報 (部内限) 第四千八百八十二號

昭和十七年八月三十一日

九二七

0864

(昭和十五年五月二十一日海軍公報(部内限) 軍務四第一三〇號)

(別紙)

一整第五六〇號通牒

昭和十七年八月十九日

電氣廳長官

海軍次官殿

國ニ於テ營ム事業ニ消費スル電力ノ新規
又ハ増加受電ニ關スル件

今般電力調整令施行規則ノ改正ニ伴ヒ電力消費者ノ新規又ハ増加受電ニ關シテハ一千キロワット以上ノ新規又ハ増加受電ヲ爲サントスルモノノ外受電々力三千キロワット以上ノモノニアリテハ増加電力ノ大小ニ拘ラズ全テ遞信大臣宛申請スベキコトト相成タルニ付貴省所營ノ國ニ於テ營ム事業ニ消費スル新規又ハ増加受電ニ關スル從來ノ打合方法(昭和十五年五月十一日附一整第五〇〇號通牒)ニ關シテモ爾今本規則改正ノ趣旨ニ照シ左記ニ依リ御打合相成度候

記

- 一 新規又ハ増加受電々力一千キロワット以上ノモノ
- ニ在リテハ從來通り遞信大臣へ打合セラルルコト

- 二 現在ノ受電々力三千キロワット以上ノモノニ在リテハ一千キロワット未滿ノ受電増加ニ付テモ全テ遞信大臣ニ打合セラルルコト
- 三 新規又ハ増加受電々力百キロワット以上一千キロワット未滿ノモノハ前項ニ依ルモノノ外ハ從來通り遞信局長へ打合セラルルコト
- 四 現在ノ受電々力五百キロワット以上三千キロワット未滿ノモノニ在リテハ百キロワット未滿ノ増加受電ニ付テモ全テ遞信局長ニ打合セラルルコト
- 五 受電々力ノ減少、廢止ニ關シテハ第二條ノ四ノ規定ニ準ジ廢止又ハ減少前ノ受電々力三千キロワット以上ノモノニ在リテハ遞信大臣ニ、五百キロワット以上三千キロワット未滿ノモノニ在リテハ遞信局長ニ届出ラルルコト

海人第一三九號

昭和十七年八月二十九日

海軍省人事局長

各廳長殿

准士官以上ノ人事ニ關スル諸報告書類並ニ諸届及願出書類等ニ電報符號記載ノ件照會事務簡捷上准士官以上ノ人事ニ關スル首題書類ニシテ

0865

當局又ハ海軍人事部ニ到達スベキモノニハ自今特別ノ
 モノヲ除キ出來得ル限リ氏名ノ下ニ電報符號(ク、シ、
 ホ等ノ科別符共)ヲ記載セシムル様取計相成度、
 追テ九月一日ヨリ海軍辭令公報ノ氏名下ニ電報符號
 ヲ記載ノコトナリタルモ該公報ニハ便宜上「ク、
 シ」等各科別符ハ省略シアルニ付爲念

經物第一五四號

昭和十七年八月二十九日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件

通知

昭和十六年九月經物第一六三號別冊首題承認者名簿中
 左記ノ者ハ本年經物第一三五號首題契約實施要領第一
 項第四號ニ該當スル者ニ付前記承認者名簿ヨリ削除致
 候

記

會社名 所在地

瀝青配給組合 東京市麴町區有樂町一ノ五

海軍公報(部内限)第四千八百八十二號

昭和十七年八月三十一日

九二九

亞鉛鐵板統制株式會社	東京市京橋區西八丁堀四ノ三
關西南洋材ベニヤ板間 屋組合	大阪市西區幸町通三ノ二五
京濱南洋材ベニヤ板間 屋商業組合	東京市神田區榮町六
靜岡縣南洋材ベニヤ板 間屋商業組合	清水市島崎町五
錫統制組合	東京市麴町區丸ノ内二ノ四 三菱鑛業株式會社内
朝鮮各道農會	
道府縣木材(又ハ林材)株式 會社又ハ之ニ準ズルモノ	
名古屋南洋材ベニヤ板 間屋商業組合	名古屋市中川區八熊町字長町 一五八七ノ五
日本線材製品統制株式 會社	東京市麴町區丸ノ内二ノ二〇
日本銅統制組合	東京市京橋區築地三ノ一〇 懇和會館内
廣島縣山林會會長	
○ 辭 令	
第三課勤務ヲ命ス	海軍少佐 宮崎 勳

0866

海軍機關中佐 徳田 徳男
第二課勤務ヲ命ス(以上ハ海軍省兵備局)
海軍中佐 永田 茂
第二課勤務ヲ命ス(以上ハ海軍運輸部)

○ 雜 款

○ 郵便物宛先ニ關スル件
當隊ハ廣東方面特別根據地隊ヲ改稱セラレタルモノナル處現在尙前名稱ヲ使用シ或ハ其ノ後開隊セラレタル廣東警備隊ト混同スル向多數有之爲處理上差支有之ニ付郵便物發送ニ當リテハ十分留意相成度
(香港方面特別根據地隊)

○ 書類發送先ニ關スル件
新編制ニ依ル第三艦隊宛書類ニシテ當隊ニ誤送スル向アリ留意相成度
追テ舊第三艦隊(自昭和十六年四月十日)關係書類ハ當艦隊宛送付アリ度爲念
(第二南遣艦隊)

○ 物品送付先ニ關スル件
當廠宛並ニ當廠經由發送物品ニシテ宛先區區ナル爲種々不都合不勘ナルニ付自今左ノ通發送相成度

區 分 名

大村本廠 長崎縣大村市第二十一海軍航空廠
鹿屋支廠 鹿兒島縣鹿屋市第二十一海軍航空廠鹿屋支廠
日宇分工場 長崎縣佐世保市日宇第二十一海軍航空廠日宇分工場
崎邊分工場 長崎縣佐世保市崎邊第二十一海軍航空廠崎邊分工場
當廠經由輸送物品 (六十一、五十一空廠並ニ特設空廠宛ノモノ) 長崎縣佐世保市第二十一海軍航空廠平瀬補給工場 (第二十一海軍航空廠)

○ 學生入校期日
來九月十五日任命セラルベキ本校第二十三期選修學生ハ同二十三日(火)ヨリ授業開始ノ豫定ニ付其ノ前日迄ニ着校セシメラレ度
(海軍機關學校)

○ 八月一日以降當分ノ開驅逐艦磯波ニ對スル經費其ノ他ノ給與ハ扶桑主計長ヲシテ掌理セシム
(第一艦隊司令部)

○ 事務所撤去
海軍橫山部隊(神祥丸) 殘務整理事務所ハ八月三十一日撤去ス
新井崎艦裝具事務所ヲ八月三十一日撤去ス

0867